

(3) 環境報告

1997年の「京都議定書」や、2009年の「環境モデル都市」選定等、京都の街はいつも地球環境との関わりを考え、先駆的な取組にチャレンジしてきました。そのような環境先進都市・京都に暮らす私たちがからこそ、地球温暖化の進行を止め、持続可能な社会を実現するために、大和学園ではデマンド監視装置を設置することで電力使用の抑制につなげたり、コピー用紙やトイレトーパーは再生紙を使用したものを選ぶなど、小さなことから地球環境にかかる負荷の軽減に努めています。2017年度は学園全体で水使用量、廃棄物発生量について前年度より削減することに成功しました。

今後も都度の数値チェックで運用を見直し、改善し続けることで引き続き省エネ活動に取り組み、光熱水使用量やCO2排出量、廃棄物発生量のさらなる削減をめざすとともに、持続可能な発展へとつなげられるよう努めていきます。詳細については以下の通りです。

※taiwaANNEX（就職支援室・広報渉外部事務所）はテナント使用で使用量管理ができないため含まない。

1. 水使用量

(m)	当年実績 (2017年4月～2018年3月)	前年実績 (2016年4月～2017年3月)	前年度比率	具体的な対策
京都栄養医療専門学校	3,446	3,860	89.3%	1. 週単位でのメーター確認・記録 2. ドライキッチン維持 3. トイレ用擬音装置の設置 4. 月々の使用量集計、削減啓発 5. 一斉休日（校舎クローズ日）の設定
京都調理師専門学校	7,843	7,610	103.1%	
京都製菓製パン技術専門学校	2,138	2,045	104.5%	
キャリアールホテル旅行専門学校	2,609	3,088	84.5%	
学園全体	16,036	16,603	96.6%	

2. ガス使用量

(m)	当年実績 (2017年4月～2018年3月)	前年実績 (2016年4月～2017年3月)	前年度比率	具体的な対策
京都栄養医療専門学校	17,765	19,734	90.0%	1. 電磁調理器具の使用（ガス代の節約） 2. 効率的な使用（使用後の確実な栓締め、無駄のない火力の調節など） 3. 月々の使用量集計、削減啓発
京都調理師専門学校	33,237	31,813	104.5%	
京都製菓製パン技術専門学校	19,163	17,279	110.9%	
キャリアールホテル旅行専門学校	3,435	3,358	102.3%	
学園全体	73,600	72,184	102.0%	

3. 電気使用量

(kWh)	当年実績 (2017年4月～2018年3月)	前年実績 (2016年4月～2017年3月)	前年度比率	具体的な対策
京都栄養医療専門学校	439,611	455,935	96.4%	1. エレベーターの使用制限 2. エネパネル（デマンド監視装置）による使用量の制限 3. こまめな消灯活動（照明やパソコン） 4. 一斉休日（校舎クローズ日）の設定 5. 自動販売機の照明の節電 6. 省エネ対応製品への入替（照明、エアコンなど） 7. 月々の使用量集計、削減啓発 8. 授業や準備時以外での実習室の自動扉OFF 9. エアコン室外機ラジエーター部分への散水 10. シリカ電球から電球型蛍光灯への変更 11. ビル用マルチエアコンの消費電力削減設定 12. 改装や新築を行う施設にLEDを導入
京都調理師専門学校	642,218	619,264	103.7%	
京都製菓製パン技術専門学校	143,992	140,285	102.6%	
キャリアールホテル旅行専門学校	626,218	597,029	104.9%	
学園全体	1,852,039	1,812,513	102.2%	

4. CO2排出量（学園全体）

（ ）内は前年度

	原油換算数量 [キロリットル]	二酸化炭素換算数量 [トン]
揮発油（ガソリン）	6.6 (9.3)	17.2 (24.3)
都市ガス（13A）	85.4 (83.8)	168.6 (165.3)
電力（一般電気事業者）	476.4 (466.2)	942.7 (931.6)
合計	568.4 (559.4)	1128.4 (1121.2)

京都府地球温暖化対策条例に基づく事業者排出量削減計画・報告・公表制度に従い集計しております。

5. 廃棄物発生量（学園全体）

（ ）内は前年度

(トン)	総発生量	再生品の使用 (再生率)	発生の抑制の取組及び再生利用の方策	
学園全体	107.166 (114.833)	コピー用紙 100% トイレトーパー 100% 印刷物 66.67%	<発生の抑制> 1. PCの活用によるペーパーレスの促進 2. 学生食堂の売れ残りを出さない 3. 材料の購入抑制 4. 水切りの徹底 5. マイボトルの持参を奨励 6. 簡易包装の呼びかけ 7. 月ごとの排出量の報告による削減意識の向上 <再生利用の方策> 1. ロス紙の裏面活用 2. 分別収集の徹底 3. リサイクル業者との契約 4. 再利用できる大型ごみは設置業者に持ち帰り依頼 5. ビンは仕入業者、缶・ペットボトルは自動販売機設置業者に持ち帰り依頼	
	事業系一般廃棄物 ・産業廃棄物			特別管理産業廃棄物
	再生利用量 33.40 (26.50) 廃棄量 73.55 (88.06)			0.216 (0.273)

事業系一般廃棄物・産業廃棄物については、事業用大規模建築物減量計画に基づき、京都市に報告している廃棄物の総量です。